残る4日間、党員拡大目標達成への大きなうねりのなかで
1年2カ月ぶりに日刊紙、日曜版ともの前進を必ず

2026年7月28日　機関紙活動局長　大幡基夫

猛暑のなか、連日の大奮闘に敬意を表します。熊本地方の大地震で被災されたみなさんにお見舞い申し上げます。

8月1日申請まで残る4日間、全県、全地区が党員拡大の目標達成めざす大きなうねりをつくり、そのなかで7月、読者拡大でも1年2カ月ぶりに日刊紙、日曜版ともの前進をかちとることを心から訴えます。

記念講演を力に二つの重点課題の目標達成を

22日の小池晃「集中期間」推進本部長の「訴え」（23日付本紙掲載）をうけ、田村智子委員長の党創立104周年記念講演を力にして、入党の働きかけと党員拡大目標をやりとげ、「手紙」と「返事」で全支部運動をつくりだす努力を最後まで貫こうと、決意と行動が広がっています。

党員拡大は、7月は約7千人に働きかけ、483人が入党を申し込み、「集中期間」の目標に対して働きかけは62・7％、申し込みは43・2％の到達となっています。8中総の「手紙」の「返事」を出した支部は39・4％です。

党員拡大と「手紙」の「返事」という「集中期間」の二つの重点課題での目標達成をとことん追求して奮闘してこそ、党の世代的継承や「しんぶん赤旗」中心の党活動の前進もふくめて、党勢の長期の後退から前進に転じる歴史的転換を果たして党大会を成功に導く自信と展望が開けてきます。

記念講演ダイジェスト版（25分）を徹底的に活用し、最後まで二つの重点課題での目標達成に力をつくそうではありませんか。

読者拡大の前進へ独自の手だてを

読者拡大は、日刊紙768人、日曜版4397人、6月同時期比で日刊紙119％、日曜版115％であり、前進には、日刊紙であと1400人以上、日曜版であと6700人以上の拡大が必要です。残る期間の頑張りいかんで、日刊紙、日曜版とも前進をかちとることは十分可能です。

幹部会決議は、二つの重点課題をやりとげながら、「党活動全体を前進の軌道に乗せる取り組みが重要」と強調し、党大会までの目標と9月末までの中間目標の達成にむかうことを訴えました。読者拡大は、残念ながら参議院選挙後、1年2カ月にわたって後退が続いています。7月、読者拡大で前進に転じることは、第30回党大会成功、統一地方選挙勝利めざし、党活動全体を前進軌道に乗せる象徴的意義をもつものとなります。

そこで二つのことを心から訴えます。

第1は、全党が入党働きかけ目標をやりぬくことと一体に読者拡大を追求することです。全県・全地区が入党の働きかけ目標へ奮闘するなら読者拡大の条件も広がります。読者、後援会員、支持者など、いまあるつながりに広く入党を働きかけるとともに、憲法署名、要求対話で訪問、宣伝に大きく打って出て新しいつながりにも、読者拡大をすすめましょう。

第2は、この活動のなかで読者拡大の独自追求をきちんと組織することです。具体的には、①全県、全地区が、入党の働きかけ、党員拡大の目標とともに、前進するために必要な読者拡大の目標を明確にする②入党の働きかけ目標にふさわしく日刊紙、日曜版の見本紙の注文を組織して、入党しても、しなくても、日刊紙、日曜版の購読を訴える③未購読党員の克服など日刊紙の独自の手だてをとるとともに、「党創立記念の今月、引き続き購読して応援を」と購読継続の働きかけを徹底することです。

25日に閉会した特別国会では、高市政権が数をたのんで悪法を次つぎと強行しました。マスメディアの調査では内閣支持率が軒並み急落するとともに、国民の声を国会に届けて奮闘する日本共産党と「しんぶん赤旗」への注目と期待が高まっています。

すべての都道府県、すべての地区が、なんとしても前進をかちとりましょう。地方議員・候補者のみなさんが、この活動の先頭に立ち、支部と一緒になって奮闘し、党員拡大、読者拡大のとりくみと成果を大きく広げ、8月7日の全国地方議員・候補者決起集会に持ち寄りましょう。最後までの奮闘を強く訴えるものです。

日本共産党

党活動

火・水・木・土曜付

記念講演ダイジェスト動画視聴

「共産党は楽しい」入党決意

千葉県松戸市高塚支部

千葉県松戸市の高塚支部は25日、党創立104周年記念講演のダイジェスト動画（25分）を視聴する「集い」を開き、何度か入党を呼びかけてきた「赤旗」日曜版読者のAさん（60代）を党に迎えました。

動画の最後で田村智子委員長が「共に時代を前に進める生き方をしようではありませんか。日本共産党への入党を心からよびかけます」と講演を結びました。参加者みんなが「一緒に政治を変えよう」と訴えるとAさんはその場で決意し「共産党は楽しい」と語って入党を申し込みました。

「集い」に参加したのは、「今回はぜひ入党してほしい」と集まった党員たち。Aさんと親しい同じ団地の党員夫妻、三輪由美県議、B地区常任委員です。横堀渉松戸・鎌ケ谷地区委員長も同席しました。

Aさんにとって「集い」は今月3回目でした。

1回目は1日。「田村さんと学ぶジェンダーと資本論入門」動画を視聴し「赤リーフ」を読みました。低賃金で働くAさんは「私、搾取されているかも」と感想を寄せました。

2回目は19日に開いた、うつの史行市議地域（7支部）の夏の集いです。60人が集まり、うつの市議がピアノ演奏も披露。12月に行われる市議選に向けた決起集会ともなりました。Aさんは「楽しい、勉強になった」と語り、支部からの話を聞いてほしい」と声をかけられました。

支部は今月中に入党してもらおうと話し合い、来月に予定していたミニ「集い」を急きょ繰り上げました。

党創立記念講演ダイジェスト動画を視聴する参加者＝26日、福島市

高校生ら参加　50代が入党申し込み

福島県の若者真ん中世代

福島県委員会の若者真ん中世代ミーティング実行委員会は26日、福島市で党創立記念講演ダイジェスト動画を視聴・交流する会を開き、高校生の民青同盟員から50代まで18人が参加しました。同実行委員会は昨秋から2、3カ月に1回ミーティングを開き、学習・交流を続けています。県青年・学生部、民青グループの党員、民青を卒業した真ん中世代の党員などが中心メンバーです。

今回、結びつきのある若者、真ん中世代の党支持者、「赤旗」読者などに電話などで参加を呼びかけました。当日は、大橋沙織県議（元民青県委員長）も参加しました。

記念講演ダイジェスト動画に加え、田村智子委員長の「ストリート対話」の動画も視聴しました。「タックス・ザ・リッチ（富める者に課税を）」は、そう思う。国民が大変なときに国会はめちゃくちゃ」「共産党がいちばんまともだと思うから大きくしたい」など、感想を自由に交流しました。高市政権の横暴ぶりを批判し、日本共産党の前進を求める声が多く寄せられました。

このなかで4人に入党を働きかけたところ、20年程前まで女性団体で一緒に活動していた50代が、入党を申し込みました。

北信越の民主的医療職場の支部

北信越地方の民主的医療職場の支部は、平和への熱い思いを持ち、患者に寄り添う医療の充実を願う30代、50代の労働者を相次いで党に迎え、活気づいています。

30代のAさんは若手職員対象の「平和学校」に参加し、沖縄で戦争の悲惨さと平和の大切さを学びました。支部の党員の働きかけに、「自分でこんなに調べて真剣に学んだことは初めて。沖縄戦に衝撃を受けました。平和のために私も何かしたい」と入党を申し込みました。

続いて入党した50代のBさんは「赤旗」日刊紙を購読し、「平和を口にしながら、武力を強化して戦争の道を突き進む高市政権はおかしいと思っていました。100年を超える歴史の中で、戦争反対を貫いてきた日本共産党を信頼しています。みなさんと一緒に勉強したい」と意欲的です。

支部では、「新入党員教育をみんなで学習しよう」と先輩たちも日程を調整して参加。2回にわたって「新入党員教育実施要項」にもとづいて綱領と規約を学びました。

さらに新しい仲間迎える計画

「迫害に屈せず平和守る党に感銘」

「綱領の言葉が難しい」との新入党員の声には、先輩たちが丁寧に説明してみんなで楽しく学習。新入党員からは「共産党が昔から迫害に屈せず平和のために考え、行動してきたことに感銘した」との感想が寄せられました。また、先輩党員も党の歴史を振り返りつつ、「改めて綱領を読み力がわく」と話しています。

新入党員教育を受けた新入党員は支部に溶け込んで早速活動に参加。Aさんは、「同じ職場で働く先輩に入党を働きかけたい。医療のこと政治のことを気軽に話せる職場にしたい」と生き生きと語っています。

支部では、学習を大切にして時々の中央委員会の方針や重要文献を学んでいます。この間、学ぶものが多く中断していた「赤本」学習も7月から再開。「知らないことを学ぶことは楽しい」とワクワクしながら学習しています。

7月は国会議員を招いた集会にみんなで参加して情勢と党の値打ちを学び、その後、懇親会を開いて交流を深めてパワーアップ。支部長が「手紙」の返事をまとめて準備するとともに、今月中にさらに党員を迎えようと計画しています。

新入党員教育　ともに成長

新入党員教育をすすめる5つのポイント

- ◇教育予定日は、入党申し込みのその場できめよう
- ◇支部で入党を決定したら、いつ、だれが、どこで教育するのか明確に
- ◇入党をすすめた人は教育を修了するまで援助しよう
- ◇「新入党員教育実施要項」を活用し、支部の党員が参加して
- ◇県・地区委員会は、全員の修了に責任を

（学習・教育局）

担当医語る「赤本」感想

■西日本の病院に通院する党員のAさん（70代）は、このほど他県勤務となった担当医に長年お世話になった感謝の気持ちから自身が読み終えた志位和夫議長の『Q&A「資本論」』（赤本）を贈りました。担当医は、本を手にして「有名な方ですね。ありがとうございます」と受け取ってくれました。ひと月後の最後の診察時の様子が寄せられました。

（一部編集）

◇

先生は「とても良い本でした」と語り、笑顔で「でも私は（共産党に）入りませんよ」。通勤時、2日で読み終えたそうです。

そして「私は資本主義社会の中で『何かおかしい』と思っていました。しかし自分が搾取されている認識はありませんでした。こんな長時間労働を続けていたらマルクスに怒られますね」「共産主義についての疑問や引っ掛かりが全部消えました。もっと若い時に出会っていたらよかった。会社とのしがらみができる前の人にぜひ読んでほしい」と語りました。

私が「これで最後になりますが、連絡が途切れるのは残念です」と話すと、ロッカーから私が贈った本を取り出し「サインと電話番号を書いてください。この病院を辞めたら連絡します」「近くに来たときはぜひ家に」と言っていただきました。

東西南北

みなさんの活動をお知らせください

支部、党機関、議員のみなさんの日ごろの党活動、小さな変化、経験をお寄せください。写真やビラも添付できます。下記QRコードかURLから、「党活動のページ」編集部に届きます。

URL https://ptv.jcp.or.jp/survey/774997

将棋第57期 新人王戦

（3回戦　第1局　第3譜）

先▲四段 片山史龍（東京出身21歳）
△四段 吉池隆真（東京出身21歳）

▲2六歩 △3四歩
▲7六歩 △4四歩
▲2五歩 △3三角
▲4八銀 △3二金
▲3六歩 △8四歩
▲7八銀 △8五歩
▲7七銀 △4二銀
▲5六歩 △4三銀
▲7九角 △6二銀
▲7八金 △7四歩（指し手20手）

（途中図は△8四歩まで）

持ち時間各3時間　消費時間　▲2分　△3分

初観戦

吉池隆真四段

今期のベスト8を目指す3回戦第3局は、同い年の吉池隆真四段と片山史龍四段の対戦です。

ついこの間、新期が始まったと思っていましたが、時のたつのは早いもの。1回戦第1局は、昨年の11月末で、あれから半年もたっているなんてネ。本局は5月14日の対局です。

吉池は2回戦からの出場で、川村悠人三段（その後四段に昇段）に勝っての本局です。本棋戦には三段時代の第54期から出場しており、その時、いきなりベスト4に進出。翌、第55期は2回戦からでしたが、そこで敗退。しかし、前期の第56期は四段で出場し、ベスト8に進んでいます。

盤側は吉池の観戦は初めてなので、ちょっと調べてみたら、素晴らしい成績だったのですヨ。昨年10月には加古川青流戦で優勝しており、今後が非常に楽しみな棋士といえるでしょう。四段になって1年半強。他棋戦での活躍が期待され、現在、3連勝中。さてさて本局はどのような結末になるのでしょうか。

吉池は居飛車党で、雁木や右玉が得意。相手の片山も居飛車党で、得意は相掛かり戦法ですから、本局は相居飛車戦が容易に予想されるところです。で、盤側の興味は、どんな戦法になるかでした。（蝶谷初男）

（途中図は△7四歩まで）

■囲碁・天元戦決勝は村川一井山、王座戦決勝は福岡一井山

囲碁の第52期天元戦本戦トーナメント準決勝は23日に村川大介九段一関航太郎九段戦が打たれ、村川九段が白番4目半勝ちをおさめ決勝進出。

決勝で村川九段は井山裕太碁聖と対戦します。

棋界メモ

第74期王座戦本戦トーナメント準決勝は23日に福岡航太朗本因坊一余正麒九段戦と本木克弥九段一井山碁聖戦が打たれ、福岡本因坊が黒番中押し勝ち、井山碁聖が白番中押し勝ちをおさめ、それぞれ決勝進出を決めました。

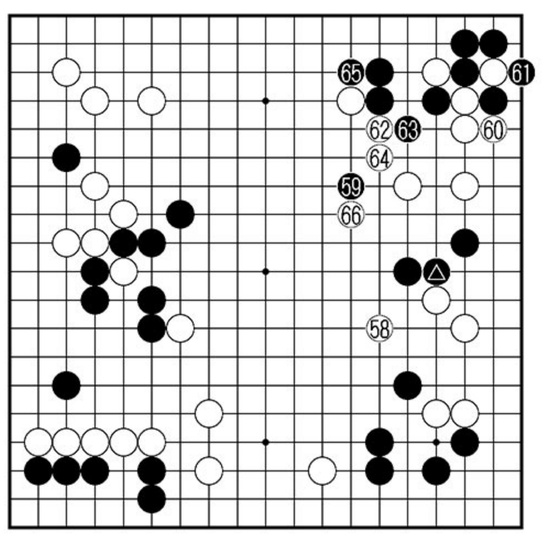
［2026・7・29・水］

囲碁第51期 新人王戦

（2回戦　第4局　第5譜58～66）

白　三段　田中佑樹（東京出身20歳）
黒　四段　加藤千笑（岐阜出身24歳）

（各3時間持ち、△は前回最終手）



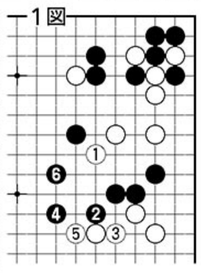
突破しておきたい

白58は「黒から同点に打たれて封鎖されたとしても右辺白は生きることが可能ですが、黒が中央で幅を利かせ始めると右上や下辺の白が強く攻められる恐れがあるため、白としてはここを突破しておきたいところです」と寺田柊汰三段。

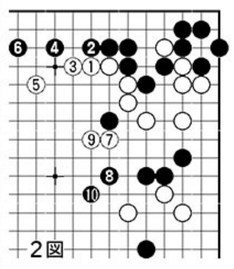
ここまでは形勢互角で推移。さあ、黒59のボウシを迎えて右上白のサバキいかにといった局面。白60と黒61を換わってから白62と上辺方面に退路を求めたのはうなずける判断で「1図白1と中央方面へ顔を出しにいくのは黒2以下6まで、右辺白との兼ね合いもありなかなか突破が難しいのです」と寺田三段。

右辺の攻防。白66は意のあるところで、これを2図白1以下6まで換わってから白7なら堅実だが、上辺を黒地にさせる明確な地のマイナスがあり黒としては8、10と逃げておくくらいでも上辺で儲けが出ている形のため別段不満がない。よって、実戦白66は上辺に黒地を与えず右上一団を安定させにいった頑張りプランだ。（石井耕司）

（消費▽黒1時間0分▽白50分）



1図



2図